



奈良県立医科大学

平成27年11月24日

日本公衆衛生学会奨励賞の受賞について

本学地域健康医学講座の佐伯圭吾講師が平成27年11月4日～6日に長崎県で開催された「第74回日本公衆衛生学会総会」で奨励賞を受賞しました。日本公衆衛生学会は、日本における公衆衛生学の主要学会であり、佐伯講師の受賞した対象研究題目は下記のとおりです。

【受賞対象研究題目】

「住居内寒冷暴露が血圧に及ぼす影響に関する疫学調査

—冬季過剰死亡の抑制に向けて—

佐 伯 圭 吾

奈良県立医科大学 地域健康医学講座

【内容】

熱帯地方以外の世界中で、冬に総死亡率が他の季節に比べて10～20%上昇する現象がみられます。日本でも6月～9月を基準に推計した冬季過剰死亡数は年間約10万人にのぼることから、公衆衛生的に重要課題であると考えられます。しかし意外にも、冬季過剰死亡は冬の気温低下が著しい北欧諸国では緩やかで、比較的温暖な南欧諸国で大きい結果が報告されており、さらに欧州各都市の生態学的研究は、冬の南欧諸国の室温が北欧諸国よりむしろ低く、室温と外気温が負の関連を示すことから、外気温より居住者が直接曝露する室温が冬季過剰死亡を引き起こす可能性と、室温調整による予防可能性が示唆されています。しかし、外気温と室温の両面から正確に寒冷曝露を定量した疫学研究が不足していました。

私どもはまず、室温低下による血圧上昇についての無作為化比較試験を実施しました。衣類や寝具を自由に調整できる状況下で、室温差10℃(24℃ vs. 14℃)が健康若年対象者148名の早朝収縮期血圧を5.8mmHg、血圧モーニングサージを7.2mmHg有意上昇させることを示しました。次に、室温低下が健康に及ぼす長期的影響を明らかにするための平城京コホートスタディを2010年から開始し、奈良県内で応募した60歳以上の男女1127名の自宅を訪問し、48時間の居間・寝室の室温測定、外出記録、自由行動下血圧、アクチグラフによる身体活動量を同時測定するベースライン調査を2014年に完了しました。横断解析から外気温が9℃以下(調査日の日中外気温中央値)の環境では、室温と外気温の相関が弱いこと($r=0.149$)、外出時間が短いために外気温で寒冷曝露を正確に推定することが難しいこと、血圧変動が外気温より室温に強く関連することを定量的に示しました。さらに、室温低下は睡眠、夜間頻尿、塩分摂取、凝固能などと関連していることを明らかにしました。

現在、長期の縦断データから室温低下と冬季の疾病過剰罹患・死亡の関連を研究するとともに、環境温度と密接に関係する体温調整・代謝の生体リズムと生活習慣病の関連について研究を進めています。

【受賞者のコメント】

生活環境の温度が健康に及ぼす影響を調査する平城京コホート研究が評価されたことを、大変うれしく思っています。ご指導いただいている車谷典男教授、共同研究者の大林賢史先生はもとより、研究スタッフ、コホート研究参加者の皆様に深謝いたします。今後さらに重要な研究成果を生み出すため、精進していく所存です。

地域健康医学講座 講師 佐伯圭吾

【所属長のコメント】

衛生学・公衆衛生学・疫学領域の主要学会は4つあるが、なかでも日本公衆衛生学会は最大規模である。その学会のしかも競争率の高い奨励賞の受賞にいたったことは、佐伯君を身近に見てきた者として喜びにたえない。当然の評価を受けたまでも思う。私たちの分野は介入可能な予防因子を発見してこそ価値がある。彼の業績は実に普遍性の高い因子に着目しており、大きな期待を寄せている。今回の賞に満足せず一層の飛躍を期待している。

地域健康医学講座 教授 車谷典男

受賞者の略歴

佐伯 圭吾 Keigo Saeki, MD, PhD

奈良県立医科大学 地域健康医学講座 講師

平成 11 年 自治医科大学医学部医学科卒業

県立奈良病院 臨床研修医

平成 13 年 奈良県十津川村国保小原診療 所長

平成 15 年 奈良県立医科大学衛生学教室 助教

平成 17 年 奈良県曾爾村国保診療所 所長

平成 20 年 奈良県立医科大学地域健康医学教室 助教

平成 26 年 奈良県立医科大学地域健康医学教室 講師

